

2005年度 大学院法務研究科
法学既修者認定試験
刑 法
(問 題)

問 1

甲は、乙を殺害すべく乙に向かってピストルの引き金を引いたところ、弾丸は乙に当たりこれを死亡させ、さらにたまたま近くに居合わせた丙に当たり丙も死亡した。その際に乙も甲を殺害すべくピストルの引き金を引こうとしていたが、甲の方が一瞬早く引き金を引いたので、甲は難を逃れたという事情が判明した。

甲の罪責を論ぜよ。

問 2

暴力団員乙の舎弟分である甲は、乙と行ったスナックで同席したXの態度に憤慨し、乙とともにXを乙方に連行し長時間にわたり暴行を加えた。その後、甲は、乙方を立ち去ったが、その際「おれ帰る」と言うだけで、自分としてはXに対する暴行をやめるという趣旨のことを告げず、乙に対しても、暴行をやめるよう求めたり、Xを病院に連れていくことなどを頼むことはなかった。乙はその後もXに暴行を加え、その結果、Xは死亡したが、死亡結果が、甲と乙の共同暴行から生じたのか、乙単独の暴行から生じたのかは明らかではなかった。

甲・乙の罪責を論ぜよ。